



産官学連携 徳島県・上勝町 ゼロ・ウェイストセンターWHY を視察してきました



9月6日～8日 全国初となる「ゼロ・ウェイスト」宣言を行った徳島県上勝町に福島大学教授とその学生さん、(株)こんの齋藤含め5名で視察して参りました。(文:福島センター営業係長・生天目和幸)

福島大学とは福島県のごみ問題をテーマに福島大学絆会メンバーを通して産官学連携し問題解決に向けた仕組みづくりを模索しております。その中で徳島県上勝町への視察の案が浮上り実現しました。

上勝町では焼却炉はもちろんのこと、ゴミ収集車も走っておりません。あるのは町に一つのごみステーション【上勝町ゼロ・ウェイストセンターWHY】です。こちらでは町民が各自ごみを持ち込んで13種類・43項目に分別しており、リサイクル率はなんと80%以上と脅威の数値！！です。ちなみに福島県は分別数が多い市町村でも19分別、リサイクル率は13.2%(令和5年度全国ワースト6位)です…

分別を実施し手間に感じる事を知るところから始まり、資源として売却出来るかどうか、逆に処理費用がかかるかどうかなど、出口の現状を知ることで、そもそもゴミを生み出さない入口の抑制が町全体に根付いていると肌で感じる事ができました。また、「くるくるショップ」という住民が持ち寄った不要品を欲しい人が持ち帰る循環を促す仕組みが構築されており、地域コミュニティの交流の場も生み出しておりました。

43分別という数字だけ聞くと大変そうに感じますが、現地では面倒と思う感覚よりもリサイクルを意識しゴミを生み出さない事への高い意識が根付いていると感じました。今後、視察で得た学びを活かし、福島に新しい価値を創出する文化を根付かせるため産官学連携ですすめていきたいと思えます。



ばあばとじいじのごはん処を 開催致しました

グループ会社の(株)こんのFC事業の大戸屋ごはん処福島北矢野目店でばあばとじいじのごはん処※を一日限定で開催いたしました。

当日は県北の80～90代・約20人が参加。初めて会う「じいじとばあば」と上手くコミュニケーションが取れるのか！？時間通りに上手いくのか！？不安だらけでしたが、始めてみると、誰もが終始笑顔で笑い声があふれ、感謝の気持ちでいっぱいになる暖かい空間になりました。

きっとこんなお店が理想の飲食店なんだと思えるほど、みんなで良い時間を過ごす事が出来ました。来年も開催出来るように、また今日から気を引き締めて店舗営業を頑張ります！！そして是非来年は社員の皆さんもお客様として是非来店して頂き、この感動を一緒に味わいたいです。そんな思えるくらい、素敵な空間でした。

(文:FC事業部 大戸屋店主 澤野)

※ばあばとじいじのごはん処とは

認知症の高齢者が接客担当として働いてもらうイベント。認知症への理解推進を目的としています。

実行委員会(カーニバルワークス江藤氏/(株)こんの/ツクイ/福島県立医科大学の先生/大戸屋本部/沢山のボランティアの皆さん)



SGM 仙台ガス保安工事株式会社 様

【設立年月日】 昭和52年8月11日

【企業理念】

弊社の企業理念は、地域社会の安全・安心に貢献することにあります。会社は、法令遵守、情報管理、お客さまとの信頼関係、職場環境、環境保全、社会貢献の6つの柱を掲げ、これらの理念を実践しています。

インタビューにお応え頂いたのは 中野 朋忠 様です



Q:会社概要を教えてください。

A:当社は1977年設立の管工事業者であり、仙台市ガス局発注の都市ガス導管工事およびビル等の業務用施設の配管溶接工事を手掛けています。ライフラインを取り扱う地元企業として、仙台ガス工事共同組合を通じて、仙台市ガス局と災害時応援協定書を締結しており、東日本大震災発生時には都市ガスの迅速な供給再開に貢献するなど、地域の生活を支えています。

Q:ユースエル認定企業についてのご紹介をお願いします。

A:若年雇用促進法に基づいて、若者の採用・育成に積極的で雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。ハローワーク等がこれらの企業の情報発信を後押しすることなどにより、企業が求める人材の円滑な採用を支援し、若者とのマッチング向上を図ります。

Q:最後に一言お願いします。

A:弊社は主に仙台市ガス局発注のガス工事を中心に都市ガスの導管工事及びビルの配管工事等の施工管轄業務を行う会社です。建設業のイメージとしては有名な3K【きつい・きたない・きけん】、さらには6K【給料が安い・休憩が少ない・かっこ悪い】というマイナスのイメージが定着している中、すこしでも職場の環境を整え、業界のモデルケースとなることを目指しております。一般的にインフラ工事の多くは完成すると、ほとんど地中に見えなくなってしまうますが、日々の人々の生活を支えることに誇りをもって仕事に取り組んでいます。



インタビューありがとう
ございました！
インタビューアー
仙台センター:横山 陽俊





福島大学
地域未来デザインセンター
Fukushima University
Community Future Design Center

福島大学 地域未来デザインセンター様

【設置年月日】 令和4年4月1日

【組織概要】地域未来デザインセンターには機能別に以下の3つの部門を置いています

- プロデュース部門 福島の社会課題解決に資するプロジェクトの形成・協業に関する取り組み・研究
- ソーシャルデザイン開発部門 ソーシャルイノベーションに関する研究・人材育成・実験的取り組み
- イノベーションcommons部門 市民活動・学びの支援、市民とのコミュニケーションの機会提供、実践の場の提供

【ビジョン】

- 心を満たす幸福度の高い地域づくり
- 未来に続くビジネスの創出
- 年代を問わずチャレンジできる人づくり
- 誰にも生きにくさを感じさせない社会



インタビューにお応え頂いたのは センター長 鈴木典夫 様です

Q:地域未来デザインセンターの概要について教えてください

A:福島大学は「地域と共に21 世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として掲げており、地域貢献は大学の取り組みにおける大きな柱となっています。福島大学地域未来デザインセンターは、自治体や企業、地域と大学をつなぐ窓口になっており、産官学金連携・地域連携の役割を果たす部署になっています。何か大学にご相談等ある場合は、まずお問い合わせください。また、上述のビジョンを達成するため、様々な地域課題に対応する取り組みをしています。その領域は、起業関係、教育関係、防災関係、観光関係、環境関係等多様であり、それらの課題を研究・事業・プロジェクトとし、自治体や企業といった地域のステークホルダー様とともに取り組んでいます。例えば、株式会社アイクリーン様とは、株式会社こんの様と一緒に、福島市のゴミ問題に関して考えるプロジェクトを行っており、本学の環境経済学の教員とゼミ生1名が参加しています。さらに、未来の産業づくり、社会づくり、コミュニティづくりにつながるイノベーション人材育成、アントレプレナー(シブ)教育の開発にも取り組んでいます。

Q:地域未来デザインセンターの取り組みの特徴を教えてください

A:当センターでは、地域の課題やニーズをベースにプロジェクトや研究を行っています。自治体や企業の抱える悩みをヒアリングし、課題等整理を行い、よりレバレッジの効いた取り組みができるようコミュニケーションを重視しています。またこれら取り組みは共同で行うことが多く、組織の垣根を越えて活動しています。

他の特徴的な取り組みとして、東日本大震災被災地である福島県浜通りの支援も挙げられるかと思います。当センターの相双地域支援サテライトにおいては、コミュニティ復興支援や、産業振興支援、教育支援、市民活動の支援、防災伝承等、様々な支援を行っております。

Q:最後にPRをどうぞ

A:これからも福島大学は「地域と共に21 世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として歩んでいきますので、今後とも是非ご協力をお願いします。また何かご入り用の際には福島大学地域未来デザインセンターまでお問い合わせください。

福島大学地域未来デザインセンター

URL:<https://cfdc.net.fukushima-u.ac.jp/>

福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライト

URL:<https://satellite.net.fukushima-u.ac.jp/>

インタビューありがとう
ございました!
インタビューアー
福島センター:生天目 和幸



喜多方市役所様

【誕生年】 2006年(平成18年)

※旧喜多方市・熱塩加納村・塩川町・山都町・高郷村が合併し現在の喜多方市が誕生しました。

【総面積】 554.63平方キロメートル

【人口】 約4万2千人

インタビューにお応え頂いたのは 総務部財政課管財室 五十嵐様です

Q:財政課様の役割を教えてください

A:財政課は、「財政班」、「管財室」、「契約管理班」の3つの組織から構成されています。財政班では、財政計画や予算編成・管理業務を行っており、管財室では、財産・公共施設・公用車の管理や財産区業務、契約検査班では、入札執行・検査や工事検査業務を主に担っています。今回の機密書類の溶解処理については、財産管理の一環として、管財室において担当しました。

Q:今回機密書類溶解処理に至った切っ掛けを教えてください

A:当市では、令和3年9月に「喜多方市カーボンニュートラル宣言～未来 へつなぐゼロカーボンシティきたかた～」を表明し、令和32年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向け、令和12年度までに二酸化炭素排出量を平成25年度比で46%削減するという目標を掲げており、市が率先して取り組んでいくこととしています。公文書等については、機密情報や個人情報等を保護するため、これまでは焼却処分としていましたが、アイクリーンさんからセキュリティを確保しながら、溶解処理することができることをご提案いただき、二酸化炭素の削減効果も図りながら、廃棄物発生の抑制・資源の有効活用、さらには、焼却する紙を減量化・再資源化することにより循環型社会へ貢献していきたいと考え、今回、溶解処理の実施に至りました。

Q:実際溶解処理をしてみたの感想があればお願い致します。

A:当市では、毎年、春と冬の2回に分け、公文書等を廃棄していますが、それぞれ平均で8～10t程度の公文書等を廃棄しています。全て自分たちで焼却施設まで持参し、廃棄していましたが、溶解処理にあたっては、アイクリーンさんに運搬車への荷詰めや溶解処理施設までの運搬も含めてご対応していただけたので、職員の業務効率化、作業時間の短縮化にも繋がりました。

Q:喜多方市または特産物等PRをお願い致します。

A:当市では、喜多方ラーメンの更なる発展と、ブランド力や認知度の向上とコロナ後の観光再興を目指すため、喜多方の「喜」が草書体で七十七とも読めることから、7月17日を「喜多方ラーメンの日」としたいと考え、日本記念日協会に登録申請をし、令和5年7月15日に登録証を授与しました。飯豊連峰からの豊富な伏流水と、農産物に恵まれた喜多方では、古くから酒・味噌・醤油などの醸造業が栄えてきました。硬度13と超軟水の源泉は「平成の名水百選」にも選ばれ、良質の味噌・醤油と共にラーメンスープの味の決め手となっています。また、コシが強い独特の縮れた平打ち麺は「熟成多加水麺」と呼ばれ、多くの店に共通しています。ラーメンを提供する店舗ごとに味わい深く、工夫をこらしたスープと麺の調和をぜひ喜多方の地でお楽しみいただきたいと考えています。

また、天喜3年(1055)源頼義の勧請とされる新宮熊野神社の拝殿「長床」は、平安時代の寝殿造りの流れをくんだ建物で、直径1尺5寸の円柱44本が等間隔に5列並んでおり、全部吹き抜けになっています。併設されている熊野神社宝物殿には銅鉢をはじめ、多くの国、県指定文化財が保存されており、拝観することができます。例年11月中旬から11月下旬には、境内にある樹齢800年以上といわれる御神木のダイチョウのライトアップも実施されており、落葉した黄色い絨毯と、長床の美しい光景を見ることができますので、これからの時期、ぜひ喜多方へお越しいただきたいと考えています。



7月17日は喜多方ラーメンの日！



新宮熊野神社の御神木

インタビューありがとう
ございました！
インタビューアー
郡山センター:志田 次夫



JA埼玉みずほ農業協同組合様

【創立年月日】1993年4月1日

【企業理念】JAみずほは自然を大切に、人との繋がりを深め地域発展と組合員の豊かな暮らしの向上に貢献いたします。

<経営方針>

- 組合員参画の組織づくりと、活動の活性化を進めます。
- 組合員との強い絆を再構築し、信頼されるJAを確立します。
- 安全・安心な農産物の提供と地域農業振興に努めます。

<行動基準>

- 私たちは、常に責任と知識能力を高め、正確な情報の提供に努めます。
- 私たちは、JAの総合力を発揮し、多様なニーズに役立つサービスを提供します。
- 私たちは、選ばれるJAを目指し、常に改革意識を持ち続けます。

インタビューにお応え頂いたのは 広報担当 吉田 爽夏 様です

Q:事業内容について教えてください

A:JA埼玉みずほは、組合員の皆さまをはじめ地域社会の皆さまが、「気軽に、ご利用できる」をモットーに、暮らしに役立つさまざまな事業を提供しております。

～主な事業について～

信用事業 貯金、融資、為替などいわゆる銀行業務

共済事業 生活全般に潜むリスクに対して「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供

購買事業 農産物の種、苗、肥料、農薬、農具、園芸資材等の販売

販売事業 生産者から消費者へ新鮮で安心・安全な農畜産物をお届けする事業

宅地等供給事業 「農と住の調和したまちづくり」を目指して、組合員の皆様の土地資産等に関することについての総合相談業務や各種の不動産仲介業務等

Q:現在取り組んでいる出来事について教えてください

A:色々な方々に弊社をより知っていただくことと広報に力をいれています。最近では、今年7月にInstagram、8月にLINEを開設しました。まだまだ駆け出しですが、お得な情報や告知、出来事などの情報発信を随時していきます。お時間のある時によろしければ弊社のInstagram・LINEもご覧いただけますと幸いです。

Q:JA埼玉みずほの直売所「さくらファーム」の紹介をお願いします

A:さくらファームは、幸手市権現堂さくら堤のとなりに位置しており、桜をはじめ、紫陽花や向日葵、曼珠沙華などのお花見シーズンは大変賑わいます。地元農家の皆さんが丹精込めた野菜等を多数揃えておりますので、お立ち寄りの際は是非さくらファームをご利用ください。

近日、新米コシヒカリの販売を開始します！

皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



インタビューありがとう
ございました！
インタビューアー
春日部センター:小林 喜太郎

